赤ちゃんの四季（36）　平成21年冬

ワクチン接種は誰のため

新型インフルエンザの猛威が、いま子どもたちを襲っています。９月には中高生を中心に流行していましたが、１０月半ば過ぎからは小学生から幼稚園児へと次第に低年齢化しています。基礎疾患のない子どもの死亡例も報告されていますが、通常の季節性インフルエンザとあまり毒性は変わらないようで、何とか凌げているようです。

待ちに待ったインフルエンザワクチンがようやく手に入るようになり、小中学生への接種も始まっていますが、対象者の選び方について紆余曲折がありました。

予防接種のもつ意義は、自分自身を感染から守ることもありますが、同時に集団発生を防止するためには、個人の選択に委ねるのではなく、行政が責任をもって接種することが公衆衛生上大切です。どうも我が国の予防接種に対する厚生労働省の態度には不可解な点が多くあります。かっての予防接種禍のしこりがあり、政府が責任を持って予防接種を進めることをしなくなりました。我が国が麻疹輸出国というレッテルを諸外国から貼られても、率先して予防接種を進めず、個人の責任でという姿勢を崩さず、ひんしゅくをかっているところです。

今年度には十分なワクチンが製造されていないわけですから、みんなでシェアしながら無駄の出ないように大切に使わなければなりません。できるだけ早くインフルエンザの蔓延を食い止めるには、小中学生への集団接種が一番です。

「子育て手当て」を支給する子どもにやさしい政権となりました。子どもへのワクチン接種は、政府主導でぜひ無償で行うようにと強く望みます。それには、予防接種は個人のためだけでなく、集団のためという国民の意識変革が必要です。

新しい政権です。ユー・キャンです。